資料１０

高次脳機能障がい支援困難事例の聴き取りについて(案)

１．H2８年度の聴き取り結果

　高次脳機能障がいは個別性の高い障がいであることをふまえ、行政や福祉サービス事業所それぞれが持つ「支援が難しい事例」を収集した。

　（1）聴き取り先：社会復帰支援事業により立ち上げたグループホームのうち、３か所に聴き取り。

　　　　　　　　　 府内市町村に対して「高次脳機能障がい児者支援及びその体制に関する調査」、

「障がい児者の相談支援に関する実施状況調査」により調整が難航する事案・した事例などを収集。

　（２）聴き取り内容（主なもの）

　　　・気に入らないことがあると暴力を加えることがあるため、かかりつけ医との連携により、服薬調整等も行っている。また日中活動の事業所とも連携し、行動観察を通して、本人が落ち着ける環境で過ごしてもらうようにしており、少しずつ落ち着いて過ごせるようになってきた事例。

　　・意欲低下等により、就労がなかなかうまくいかなかったり、支援者が細やかに支援をしていることに対し反発していたが、金銭管理等、本人に担ってもらう役割を増やしたことで、支援者との関係がうまくいくようになり、就労支援もうまくいき始めた事例。

　　・意欲低下、易疲労性が顕著で、声をかけないと寝て過ごすことが多かったが、本人の興味のある話をしながら次の動作を促すことで、グループホームでの生活リズムに少しずつ適応できるようになってきた事例。

２．H29年度の取組内容

　H28年度に聞き取った事例では、①暴言、暴行など脱抑制が顕著な例、②意欲低下、易疲労性等が顕著な例が多かった。特に、他者に危害を及ぼすような恐れがある事例については、支援者が支援する上で困難を伴うことが想定される。

　そのため、今年度は、以下について取組む。

　高次脳機能障がいの支援実績の多い事業所に対し、上記①や②のような支援が難しい事例において、支援者間で検討した状況アセスメント、組み立てた支援方策、実施後の状況（症状改善の有無等）について、より詳細に聴き取る。特に、精神科Dr.の投薬調整と、Dr.も入った支援会議の開催実績がある事例については、医療の視点を含めた内容を聴き取る。またH２８年度に聴き取った事例以外に、脱抑制による触法傾向のある方の事例等がないか、さらに聴き取る。